

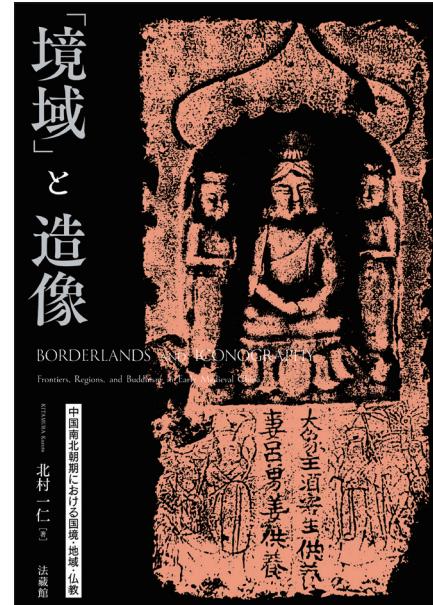
「境域」と造像

中国南北朝期における
国境・地域・仏教

北村一仁 [著] (河南農業大学外国語学院副教授)

2026年3月刊行

B5判・上製カバー・五六〇頁・定価一一、〇〇〇円+税



新発見を含む仏教造像碑記を材料に、
中国南北朝期の国境地域、とくに河南
地域、河東地域の人々のつながり!!
「縁」と彼らが形成した社会、そしてそ
れらを包摂する空間を検討し、それら
の歴史的意義を考察する。

前言
はじめに——石刻史料から見た地域社会の「縁」

第一部 河南地域の「境域」と造像

第一編 南北朝後期颍川地区の人々と社會——石刻史料を手掛かりとして
第二編 「白實等造中興寺石象記」についての考察——北朝後期南陽地区の政治・社會状況を

中心として

第三編 北朝後期汝水流域地区出土諸碑記の研究
第四編 河南洛寧縣出土、北周牛氏千佛碑に見る北朝東西国境地域

第五編 東魏～北齊期の「豫北」地域における造像と社會事業——義井・義橋・八關齋
附編 錄文編

第二部 河東地域の「境域」と造像

第一編 北朝～隋初期の河東地域における諸佛教事業の背景——絳郡地区出土佛教碑記の研究・序説

第二編 兩魏期における正平高涼楊氏と地域社會——佛教造像事業をめぐる人々とその目的

第三編 北周の軍事據點における造像事業——民衆佛教と河東地域社會

第四編 北朝國境地域における佛教造像事業と地域社會——山西陽城出土、「上官氏等合邑造
釋迦佛像摩崖」を手掛かりとして

第五編 北魏～東魏期における端氏縣酒氏の造像事業
附 酒氏造像補遺——もう一つの酒氏造像・北齊「酒客生造三尊佛碑像記」

第六編 北魏～兩魏期絳州地区的土豪と佛教、續考——山西省聞喜・絳縣の諸造像記語——諸
碑の考察・特に政治的側面について

第七編 北朝期長子縣周邊の地域社會と造像事業——「魏蠻造像記」・「張婆羅門造像記」・「程
哲碑」を手がかりとして

終章 南北朝期國境地域における造像事業が持つ意義

圖版一覽／あとがき

注文書

(書店名)

ご担当

様

冊

法藏館 二二、〇〇〇円 + 税

北村一仁著

ご住所

「境域」と造像

中国南北朝期における国境・地域・仏教

ISBN978-4-8318-5746-0 C3022

お名前
お電話

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
<http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp

中国史・仏教